

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」
 ～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

自分から進んで学び、活動する児童の育成

4月

学力向上目標①

- ・さいたま市学習状況調査における記述式問題において、平均無解答率を前年度より2pt減少させた値にする。

＜目標達成に向けた学力向上策＞

策1

全学年において、一年間を通して課題解決のために「書く」機会の設定をする。

開始期日

9月

具体的な手立て

- ・令和元年度さいたま市学習状況調査を分析し、実態を把握する。
- ・各授業で、書く機会を設定し、その時間を確保する。
- ・週に1回、書くことに対する抵抗感を軽減するための取組を企画する。

8月

策2

〈全国学力・学習状況調査結果分析後〉

児童が課題解決に向けた見通しをもつことのできる授業を構想する。

開始期日

10月

具体的な手立て

- ・単元の導入で、学習課題と学習計画の設定を児童と話し合いながら行う。
- ・授業の導入で、一単位時間の学習過程について児童と押さえる。

2月

本年度の振り返り

学習状況調査が未実施ため、数値目標の成果は不明である。しかし、書く機会（各授業、コトバーランド）の確保、学校研修を通し課題解決に向けた見通しをもつ授業の構想は全学級で推進できた。

達成度

80%

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

- ・書く機会について、日々の授業や日常活動の中に落とし込み、児童の記述力の向上と書くことへの負担感の減少を更に図っていく。
- ・確実に精度の高い検証を行うために、さいたま市学習状況調査と別の調査を合わせた実施を検討する。

4月

学力向上目標②

・「よい授業」のアンケートにおいて、因子④（児童生徒の活動）の肯定的回答を前年度より2pt向上させた値にする。

<目標達成に向けた学力向上策>

策1

児童の主体性を引き出すことができるように、研修を通して授業力の向上を図る。

開始期日

6月

具体的な手立て

- ・昨年度までの研究成果「安心感のある学級集団づくり」を共有・継続する。
- ・教師間で授業を見合う頻度を増やし、授業に関わる協議を日常化・活発化させることで、実態と課題に合った指導の方策を構想する研修を充実させる。

8月

策2

<全国学力・学習状況調査結果分析後>

安定した学級経営を土台とし、その上に「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう人間性」を育む指導方法を探る。

開始期日

10月

具体的な手立て

- ・思考の視点やグループ協議の役割などを明確にして授業に取り入れる。
- ・全教員による授業公開と協議会を設け、授業改善を促進させる。

2月

本年度の振り返り

「よい授業」のアンケート、因子④（児童生徒の活動）の肯定的回答が16.2ptから16.5ptへ向上した。全教員による授業公開と授業改善に向けた研究協議を実施することができた。

達成度

65%

3月

次年度の学力向上目標の柱・ポイント

- ・児童主体の課題解決学習を通し、学びに向かう人間性を高める協働学習の工夫を施した授業をさらに展開していけるように、学校研修を確実に推進していく。
- ・児童や学校の実態、調査の性質を見極め、適切な目標値の設定について検討を進める。